

ベイラ港の開発動向

1. ベイラ回廊の開発状況

インド洋のベイラ港を起点とするベイラ回廊は、モザンビークのテテ州の石炭産地であるモアティゼ及びマラウイを結ぶセナ鉄道（回廊）、ベイラ港とジンバブエを結ぶマチパンダ（Machipanda）鉄道、さらにザンビアのルサカを道路・鉄道で結ぶ国際回廊である。ベイラ港とモアティゼを結ぶセナ鉄道は、総延長575kmであり、2011年に開通した。セナ鉄道の石炭輸送能力は、600万トン/年とされている。マチパンダ線については、鉄道改修計画があり、2015年2月にプレF/Sが実施された。ベイラ回廊の道路は、比較的整備されているものの、ベイラーインチョピ（Inchope）間などにおいて、リハビリが必要となっている。また、ベイラ港—ジンバブエ間には、パイプラインが敷設されている。



図1：ベイラ回廊の地域

2. ベイラ港の現状

ベイラ港は、プングウェ（Pungue）川の河口付近に位置しており、11埠頭、総延長長1,994mからなる。ベイラ港の水深は、8~12mであるが、プングウェ川から流入する土砂が常に堆積するため、4万DWT船舶しか接岸できず、パナマックス線以上の大型船で出荷するためには、沖積みする必要がある。現在のベイラ港の処理能力は、一般貨物ターミナル



図2：ベイラ港の概要

が240万トン/年、コンテナターミナルが20万TEU/年である。ベイラ港のコンテナと一般貨物ターミナルは、モザンビーク鉄道港湾公社（CFM、33%）とオランダのCornelder（67%）との間で形成されたJV会社、Cornelder de Mocambique、によって運営されている。その他、石油ターミナル（第12埠頭）、穀物ターミナルなどがある。

テテ州の石炭輸送については、第8埠頭を石炭ターミナルとする改修工事が、VALEとリバーズダーレ（ベンガ炭鉱）の出資により実施された。現在、VALEとICVL（ベンガ炭鉱）がセナ鉄道とベイラ港を通して原料炭を輸出している。セナ線の石炭輸送能力は、6百万トン/年であるが、2013年のベイラ港からの石炭輸出は、VALEが3.8百万トン/年であった。

また、ベイラ港の北側に新石炭ターミナルを建設する計画（New Coal Terminal Beira: NCTB）がある。NCTBでは、Essar PortsとCFMとのJVにより運営されることが予定されており、15~20百万/トンの石炭を処理する能力に拡大することが計

画されている。一方で、ベイラ港の北部に位置する Savana 近郊において、新港を建設する計画がある。この新港は、水深が深く、天然の良港であるとの情報があるが、詳細は不明である。ベンガ炭鉱を買収したインドの ICVL は、ベイラ港の石炭ターミナル改修事業に関心があるとの情報がある。

さらに、ベイラ港での肥料需要の増加に対応するため、肥料ターミナルの建設事業が実施されており、8,000 トン/日の肥料処理能力が計画されている。ベイラ港で輸送される肥料は、モザンビーク、ジンバブエ、マラウイ、ザンビアなどの近隣諸国において消費される。肥料ターミナル建設事業のフェーズ I では、35 百万ドルの事業費が見込まれており、フェーズ II では、さらに 35 百万ドルが見込まれている。ベイラ港の開発計画については、以下の表にて取り纏められる。

表 1 ベイラ港の投資計画

投資	処理能力	投資見積額(\$ million)	年
Handling equipment container terminal		30 - 60	2016 - 2035
Mineral/Dry bulk terminal		50 - 100	
Car terminal		5 - 10	
Sugar terminal		10 - 20	
Quay 11 A, B, C	500 - 600 m, 13,5m draft	200 - 300	2015/16
New Coal terminal	10 - 20 mtpa	600	
Beira Grain Terminal, phase 2	30.000 ton	10	
Sena line upgrade	18 mtpa	224	
Second oil terminal		50 - 150	
Rehab Beira - Machipanda rail		50 - 150	
Fertilizer Terminal, phase 2	30.000 tons	35	
Manga-Mungassa Special Economic Zone, phase 2	800ha	240	
Rehab fishing port	70,000 tons	50 - 150	
Rehab Beira - Machipanda road	300km	400	
Various warehousing companies	100,000m2	50 - 100	

2. 日本企業の参加機会

ベイラ港周辺では、日本企業がガスから製造される肥料工場を建設する計画がある。ベイラ港の肥料ターミナルが整備されつつある中、肥料工場への投資は、ベイラ港を利用した肥料の輸送を行う機会がある。また、ベイラ港及びベイラ回廊鉄道網の整備により物流コストが低減されることから、モザンビーク中部および近隣諸国において、投資を計画している日本企業にとって、投資を呼び込む効果がある。ベイラ新港の建設においても、日本企業の参加の可能性はある。

3. 担当窓口

組織	担当者名	連絡先	備考
モザンビーク鉄道港湾公社 (CFM)	Maria Alice	+258-823834980 (secretary)	CFM のベイラ港担当者。
	Candido G. Jone, Executive Director	+258 - 23 325200	ベイラ在住の CFM Centre の代表。